

平成 26 年 12 月 4 日～5 日に国立女性教育会館（埼玉）で開催された、大学等における男女共同参画推進セミナーに参加しました。本セミナーは、国公私立の大学・短期大学、高専で男女共同参画に関わる教員・職員を対象にしたもので、参加者は約 80 名でした。

初日は、まず基調講演で首都大学東京の江原副学長から、大学における男女共同参画を推進するために大学の使命に関連付けることが男女共同参画の理解向上や事業継続に有効であるとお話されました。続いての講義では筑波大学の吉武教授が経営学のお立場から、教育改革や大学組織、マネジメントの構造・課題を整理し、職員・教員それぞれが取り組むべき方策について、大学改革加速のための男女共同参画推進に基づいて示されました。

2 日目は、「男女共同参画推進のための基盤づくり」「男女ともに育児・介護との両立をめざした環境づくり」「戦略としての女子学生向けキャリア形成支援」の 3 つの分科会に分かれて事例報告およびグループワークが行われました。育児介護両立の分科会では、まず高知大学の廣瀬特任講師から、ダイバーシティを高知の皿鉢料理に例える、ポジティブオフ（ライフイベント）の例として釣りやよさこいを挙げるなど地域の風土に合わせた工夫や、四国 5 大学で連携して e-learning、講師相互派遣などを行うなどの事例が報告されました。また、東邦大学の中野学長補佐からは、学内ニーズへの対応（女性医師・女性研究者支援）、理事サイドへのフィードバック、女性が働きやすい大学として認知されることが受験生獲得へつながり、男女共同参画は大学にとって財政面にも資するという取組継続の工夫が紹介されました。その後、4～5 人の小グループに分かれ、「学内で男女ともに育児・介護との両立が可能な就業環境をととのえていく上でどのようなサポート体制が考えられるか」という課題についてグループディスカッションを行いました。最後に、各分科会での報告を全体会で共有しました。

本セミナーは宿泊型の研修のため、参加者同士の情報交換を十分に行えるのが大きな特徴です。初日の夕食を兼ねた情報交換会、その後ラウンジにて消灯時間まで参加者同士の交流は続きました。翌日も、分科会でのグループワークや、途中でグループメンバーとともに昼食をとるなど、他大学とのネットワークづくりの場となりました。情報交換コーナーでは三重大学の最近の取組をまとめたチラシを配布しました。三重大学で 2014 年 3 月に作成した「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」に興味を持ってくださった大学もありました。2014 年 6 月に四日市で開催された「ファザーリング全国フォーラム in みえ」での 100 人男子会×女子会（だんじょかい）については、次のファザーリング全国フォーラム開催県の富山大学からその詳細についてお尋ねいただきました。

男女共同参画の取り組みをすでに行っている大学やこれから取り組んでいく大学、大学組織内で意思決定の立場の教員から実務担当職員まで、参加者の環境や立場は異なるが志を同じくするものが一同に会するこのセミナーは非常に有意義でありました。男女共同参画の取組は大学の運営・経営において重要ですが、すぐに結果が目に見えるものではありません。一つ一つ成功事例を重ね、口コミ・草の根アピールなどひとりひとりが地道に活動を続けていくことが重要で、それが大学の将来につながっていくことを感じました。